

2018年・企画ガイド

大和・深見の史跡と下鶴間宿探訪

日 時：10月13日（土）瀬谷駅北口広場 9時～15分受付

コース：瀬谷駅北口広場(WC)→境川遊歩道(WC)→坊之窪石仏群→深見諏訪山遺跡→深見城址
 (深見歴史の森)→諏訪神社(WC)→矢倉沢往還・下鶴間宿→鶴林寺→下鶴間ふるさと館(WC)→
 瀬谷そば祭り会場(解散)(12:30頃) [徒歩約7km]

	ポイント	由来・歴史
1	境川遊歩道	境川は、町田市相原の山中に端を発し、多摩丘陵をかすめて相模原台地を削り、南下して江ノ島で相模湾に注ぐ川で、全長約52Kmの2級河川。相模国と武蔵国の国境にされたことにより由来。「藤沢大和自転車道」は、藤沢市鷺沼海岸から大和市下鶴間に至る全長24.5Km。
2	坊之窪石仏群	昭和53年(1981)秋、附近の道路拡張整備により集められ、石造物移動の碑の説明によると、地神塔は文久元年(1861)8月建立、庚申塔は天保6年(1836)6月、猿田彦大明神は明治8年(1875)などがわかる。
3	深見諏訪山遺跡	昭和56年、発掘調査により、旧石器、縄文時代遺跡が発掘され、約2万1千年以前の石器類が出土した。黒曜石の石槍には中部山岳地帯の石器との関連がみられる。 (下鶴間長堀遺跡 長堀南遺跡 長堀北遺跡)
4	深見城跡 (深見歴史の森)	境川に面した大和市内で最も保存状態の良い城跡。空堀りや土塁、それらに区画された郭の様子がよくわかる。南北100m東西150m程の城の範囲内に二重の空堀が巡らされ、敵が一気に主郭内になだれ込めない様な造り。城の構造から室町時代の築城と考えられている。城主の一人が山田伊賀守経光とする伝承がある。
5	諏訪神社	創建時代は不詳、『風土起稿』に「延宝8年(1680)棟札あり」とある。諏訪神社は相撲の神様としても有名で、この神社で明治時代に横綱・梅ヶ谷、常陸山などの奉納相撲があった。明治19年(1886)10月19日付の北辰一刀流奉納額には、神奈川一円の剣術家の名前が列記されている。
6	矢倉沢往還 と下鶴間宿	江戸青山から、長津田、下鶴間を抜けて矢倉沢峠(南足柄)を経て御殿場に至る。東海道が出来るまでは主要街道。その後東海道の脇往還として重要な役割を果し、大山参りが盛んになるにつれ大山街道と呼ばれ、街道沿いの宿場町は賑わいをみせた。下鶴間宿にも旅籠、居酒屋、餅屋、質屋、染物屋が軒を並べていた。渡辺崋山も天保2年(1831)9月、その様子を『游相日記』に書きとめている。
7	鶴林寺 (浄土宗)	本尊は阿弥陀如来。梵鐘は戦後再生。江戸時代の鶴間村は約400石で、江原、都筑、松平の3旗本が領有。当寺には都筑氏の代官瀬沼氏一族の墓がある。境内に明治6年(1873)に小学校の鶴鳴学舎(下鶴間学校)設立の碑がある。
8	下鶴間 ふるさと館	宿場町時代の唯一の商家建築である旧小倉家住宅母屋と土蔵を復元(大和市指定重要文化財)。展示品は明治期の葉類、郵便局だった時代の郵便保護銃など。復元解体時に発見された床板裏面の落書きには、黒船や大工の名前があり、安政3年(1856)建築当時の世相が垣間見られる。

*コースは、道幅・歩道が狭い箇所や生活道路を歩きます。横に広がらないようご協力願います。

<次回案内>

阿久和とミルク・ファーム

日時：2018年11月17日（土）相鉄線 三ツ境駅前広場 9時～15分受付

会員募集中!! せや・ガイドの会：竹見 (☎:090-3900-6469) までお問合せください。

ホームページ「せや・ガイドの会」 [検索] <http://www7b.biglobe.ne.jp/~seya-guide/index.html>